

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2009.05.May 臨時号

生活者の声が 生かされる政治に

「議会改革を求めて
選挙戦を戦う」

4月19日の行われた市議会議員選挙は、前回より定数が48から34に削減され、選挙区もなくなり全市一区で46人の候補が34の議席獲得を目指して戦われました。

私も応援する候補の出陣式や第一声での応援演説、街頭での応援など、皆さんへのご支援のお願いに走り回りました。



川井弘光さんの選挙遊説を応援

結果、私の支援組織である市職ユニオン組織内議員の川井弘光さんが当選順位3位という好成绩で再選されましたし、民主党推薦の津森良治さんも再選されました。一緒に街頭に立つて応援した私もとてもうれしく思います。

お二人とも、マニフェストに「議会改革」を掲げ、議員同士でしっかりと議論がされ、議会を通して市長や行政のチェックや政策提言をすることや、市民に議会で議論されたことをきちんと報告することなどができる議会にしようと呼べられました。当たり前のことのようにですが、実はこのことができていないために必要なところに税金が回っていかないことにもなります。

両議員には、昨年12月に制定された「松江市議会基本条

例」が実効あるものになるよう努力していただきたいですし、また、他にも議会改革を掲げている候補もいましたので、議員同士で活発な議論がなされ、市民に開かれた議会になることを期待しています。

同じことは県議会にも言えることです。私たち民主県民クラブでは、政策決定にもっと積極的にいかかわれるよう、情報収集に努め、予算編成段階から政策提言できるように調査研究に力を入れようと話し合ったところです。

市議選における女性候補はどうであったかといえば、残念ながら、民主党推薦の渡部通恵さんは良い結果を得ることができませんでした。

また、松江市男女共同参画センターの活動組織「プリエールねっと」で代表委員として一緒に活動していた貴谷麻以さんは上位で当選という、新人候補というギャップを跳ね返し健闘されました。前回に比べ女性議員が6名から3名に減った中、女性の視点での活躍を期待します。

選挙戦悲喜こもごもですが、今から次の選挙にむけてもっと女性議員を増やす努力をしていかなくはなりません。

最後になりましたが、今回の選挙では、皆様には各候補へのご支持ご支援いただきまことに厚くお礼申し上げます。

松江市議会選挙開票結果

当選順位	氏名	得票数	
3位	川井 弘光	3,318	民主党推薦
8位	貴谷 麻以	2,980	
9位	斎藤 菊市	2,966	連合推薦
23位	宅野 賢治	2,414	連合推薦
24位	畑尾 幸生	2,318	連合推薦
26位	津森 良治	2,282	民主党推薦
落選	渡部 通恵	1,317	民主党推薦

訪れた人に感動と満足感を

4月22日・23日の2日間、民主県民クラブで大田市へ調査視察に行ってきました。鳥取県の民主党議員や活動を共にする議員の皆さん8名も、私たちと一緒に調査に加わり意見交換会を行いました。

一日目は、世界遺産の石見銀山や三瓶小豆原埋没林公園などを視察しました。いずれも、ガイドの方の詳しい説明があったおかげで、銀山や埋没林について理解を深めることができ、以前訪れた時とは随分違った印象を持ち、深い感動がわいてきました。改めて、ガイドの重要性を認識しました。



石見銀山についての説明を受ける

これだけの施設を整備したからには、さらに多くの人に訪れてもらう工夫や、今後もガイドの配置や施設管理をきちんとして、訪れた人に感動と満足感を得てもらおう取り組みが必要です。

頑張る県民を応援する
仕組みづくりを

二日目には社会福祉法人「亀の子」、認定NPO法人「緑と水の連絡会議」を訪問し、施設見学やお話を聞かせていただきました。いずれも熱意ある女性が起こした事業所で、地域の活性化に寄与しています。

社会福祉法人「亀の子」では精神障害者の支援を行っています。障害者を病院の中で囲んでしまうのではなく、地域の中で住民とともに生活していただける環境をつくりたいとの森山登美子副理事長の思いが実現されていて、施設で働く皆さんはとても明るく生き生きとしていらっしゃる様子がとても印象的でした。

障害者自立支援法ができて、

「障害者が地域で普通に暮らすことや、自立と共生の社会づくりを目標とする」基本理念は素晴らしいが、しかし、現実には理想通りにいかないことは多々あり、そこに法律の壁が立ちふさがり、そこをどうやったら乗り越えられるのかに悪戦苦闘しておられることが理事長さんのお話から伝わってきます。

認定NPO法人「緑と水の連絡会議」は、草原・里山など二次的自然の保全の重要性を訴えるために設立された団体で、理事長の高橋泰子さんを中心に、石見銀山世界遺産を守る森づくりやバイオマスチップボイラーの実証実験などに取り組んでいます。また、国際ワークキャンプを開催し、世界の私たちと交流しながら環境保全活動に取り組むなど、高橋泰子理事長が風邪を引いて声が出にくいにもかかわらず懸命に説明してくださいました。

また、職場内傷病児・学童保育を実施され、職員が働きやすい環境づくりにも取り組んでいます。

います。

いずれも民の力を最大限生かして、地域に貢献しています。行政からの支援もなければ継続していくことは難しく、民と官の壁をどう取り払っていくが課題です。



熱意あふれる森山副理事長の話に聞き入る

「こつこつカンパニー」で
仕事と家庭の両立支援

そのことによって、19年度末26社だった「こつこつカンパニー」は20年度末では98社と約4倍にも増えたそうです。

「こつこつカンパニー」とは、島根県が「仕事と家庭の調和」と「男女共同参画」を推進するために子育て中の従業員を積極的に支援する企業を「しまね子育て応援企業（通称「こつこつカンパニー」）に認定するものです。これを広めるための誘導策として入札参加資格要件に入れることを提案したのですが、その結果、子育て支援に企業の関心が高まったことはいずれも限りです。

このことは、子育て中の職員の支援だけでなく、会社全体の働き方にも影響していくことであり、働きやすい職場作りには寄与するもので、「こつこつカンパニー」が今後も増えていくことを期待します。

